

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 6 日現在

機関番号：35408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12147

研究課題名(和文) 看護学生に効果的な学習方法を支援するための教育アプローチの構築

研究課題名(英文) The development of educational strategies that facilitates nursing students' adoption of an effective learning approach

研究代表者

高瀬 美由紀 (Takase, Miyuki)

安田女子大学・看護学部・教授

研究者番号：50437521

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：有限の学習時間の中で、看護学生の実践能力を向上させるためには、学生自らが学習テーマに興味を持ち、意欲的に学習し、そして獲得した知識を既習の知識や現実社会と関連付ける深層的学習アプローチ(DAL)が必要である。そこで、本研究はDALの促進に影響を与える因子とDALの効果を明らかにすることを目的とした。

看護学生を対象に面接・質問紙調査を実施した結果、DALを促進する因子として『教員による学習活動の促進』『教員による専門的知識の教授と理解を促進するような説明』『教員の熱意と支援』の3因子が抽出された。そして先行研究結果から、DALに基づいた学習は学業成績の向上と関連していることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、看護学生による主体的な学習への取り組みを(DAL)を促進するためには、教員による学習活動の促進や、学生の知識の深化や拡大を促進する教授方法、そして教員による教育熱意や支援が重要であることが示唆された。近年では、学生の主体的学習活動を促進するための方法として、反転学習や問題解決型学習などが推進されているが、これらは上記3因子を強化する方法に他ならない。本研究は、多種多様に存在する教授法の中で、どのような要素が学生のDAL採用に寄与するか、そしてひいては学業成績向上に寄与できるかを明らかにした意義深い研究であるといえる。

研究成果の概要(英文)：In order to improve students' competence within a limited time-frame, educators must encourage students to adopt the deep approach to learning (DAL), with which students are motivated to understand learning topics in depth, and apply their newly acquired knowledge to the pre-existing knowledge and reality. Therefore, this study aimed to explore nursing students' perceptions of the teaching context that facilitated their adoption of the DAL, and the relationship between the use of the DAL and their academic achievement.

Based on interviews with and a survey on nursing students, the following three factors, which educators exhibited in classroom, were identified as facilitating student' adoption of the DAL; encouraging learning activities, providing knowledge and explanation that facilitated students' understanding, and showing enthusiasm/support. The results of a systematic review suggested that the DAL was positively correlated with nursing students' academic achievements.

研究分野：看護管理 看護教育

キーワード：深層的学習アプローチ 表層的学習アプローチ 看護学生 学習アプローチ

### 1. 研究開始当初の背景

看護実践能力とは、看護実践における専門的責任を果たすために必要な個人適性、専門的姿勢・行動、そして専門知識と技術に基づいたケア能力という一連の属性を効果的に発揮できる能力を指す[1]。個々の看護師の看護実践能力が向上することによって、看護師は専門職集団として、安全で効果的な看護を患者に提供し、人々の well-being を守ることができる。また最近の研究により、看護実践能力の高さは看護師の離職意思の低減に寄与することも明らかにされている[2]。つまり看護実践能力の向上は、看護の質を補償するだけでなく、マンパワーの確保にも貢献していると言え、そのため看護師の実践能力をどのように担保・向上していくかは臨床および看護師養成機関にとっては喫緊の課題となっている。

その一方で、我が国では看護師の実践能力低下が懸念されている。言うまでもなく、看護実践能力の養成は看護基礎教育課程から始まるが、看護基礎教育課程における限られた年数では、臨床が求めるレベルにまで学生の実践能力を十分に高めた上で、臨床に送り出すことが難しいのが現実である。これにより、看護基礎教育課程における看護習熟度の影響を最も受けている新卒看護師は、自己の看護実践能力不足により、自己と職場で求められる実践能力との間に乖離を体験し、それが彼らの早期離職を引き起こしていると言われている[3]。つまり、看護基礎教育課程における看護実践能力の養成が、臨床看護における看護の質と量に影響を与えていると言える。

看護基礎教育課程で十分な看護実践能力の養成ができない原因の一つに、詰め込み式の教育があると考えられる。社会が求める看護活動領域の拡大に伴い、現在の看護基礎教育課程カリキュラムには、従来存在しなかった災害看護や在宅看護など、広範囲な看護教育内容が求められようになった。これにより看護基礎教育課程におけるカリキュラムは過密なものとなり、教育者側は一つの学習テーマに十分な教育時間を割くことができず、また学生も看護知識と技術の習熟と応用力を身につけるための学習ではなく、一つ一つの科目試験に合格するための暗記学習を主たる学習方法として採用してしまうという現状を生み出している。このような暗記学習に基づいた学習アプローチは surface approach to learning (SAL) と呼ばれ、科目の主題に対する興味や理解を伴わない学習アプローチとして知られている[4]。SAL では、主題に対する理解や現実世界における応用力が身につかないため、これが看護学生の実践能力不足に寄与していると考えられる。

看護学生の実践能力を向上させるためには、学生自らが学習テーマに興味を持ち、そのテーマを理解するために意欲的に学習し、そして学習によって得られた知識を他の状況や既習の知識と関連付けるといった学習戦略を伴う deep approach to learning (DAL) が必要と考えられる[4]。申請者が実施した先行研究でも、看護師の職場における学習方法(「省察を通じた学習」「実践を通じた学習」「フィードバックによる学習」「他者からの学び」「研修参加を通じた学習」)が、彼らの看護実践能力と正相関していたことが明らかにされており[5]、効果的な学習アプローチは実践能力の形成に寄与すると考えられる。しかしながら、どのような因子(教員側、講義内容・形態、試験内容・形態、及び学生側の動機)が DAL の促進に貢献しているかは明らかにされていない。また看護学生に、DAL を身につけさせるための教育アプローチも未だ解明されていない。

### 2. 研究の目的

そこで本研究は、看護実践能力の向上に寄与すると期待される学習アプローチ(つまり DAL)の促進に影響を与える因子を検証し、②DAL を促進するための教育アプローチを開発することを目的とした。尚、研究目的②については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う教育方法の制限より、その達成が困難となった。そこで研究目的②に変え、本研究では、システムティック・レビューを通して、DAL 及び SAL と看護学生の学業成績の関係を検証し、看護学生にとって適切な学習アプローチを特定することを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の3調査を実施した。調査1及び2については、研究者の所属機関及び研究協力機関における倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(1) 調査1: 講義、演習、実習科目における DAL 促進因子を解明するために、A 県内の3看護系大学に所属する2~4年次生に半構造的面接法を行った。面接内容は、対象学生の許可を得て IC レコーダーに録音し、その後、逐語録化した。分析には質的帰納的分析法を用い、DAL の促進因子をコード・サブカテゴリー・カテゴリー化した。尚、本報告書では講義科目において、学生が DAL 促進に影響を与えると認識する教育アプローチ(授業環境・雰囲気、教員の授業に対する姿勢、教育方法など)に関する結果を述べる。

(2) 調査2: 調査2の目的は、①調査1の結果に基づき、看護学生の学習意欲を高める教育アプローチを測定する尺度( Teaching Approach Scale )を作成し、その信頼性と妥当性を検証すること、そして②学生が認知する教育アプローチと DAL の関係性を検証することであった。そのため、2看護系大学に所属する2~4年次生500名を対象に質問紙調査を実施した。 Teaching Approach Scale の信頼性と妥当性は、次の手順で検証した。まず尺度の因子妥当性を検証する

ために探索的・確認的因子分析を行った。次に、尺度の構成概念妥当性の検討するために、Course Interest Survey [6]得点と Teaching Approach Scale 得点との相関係数を算出した。最後に尺度の内的整合性を確認するために Cronbach's alpha 係数を算出した。

そして、学生が認知する教育アプローチと DAL の関係性を検証するために、パス解析を行った。DAL の測定には、河井と溝上によって作成された学習アプローチ測定尺度[7]を使用した。

(3) 調査3: 調査3の目的は、システマティック・レビューを通して、DAL 及び SAL と看護学生の学業成績の関係を検証することであった。CINAHL, MEDLINE, PubMed, ERIC, そして Scopus を使用し、2020年11月までに出版された英論文をキーワード検索した。2人の研究者が独立して抽出された論文の文献名、抄録、そして本文を精読し、選定基準・除外基準に照しながら文献を選定した。その後、学習アプローチと学業成績の関係を示す相関係数を抽出し、メタ分析を行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) 調査1

合計で23名の学生から研究協力が得られた。対象者の平均年齢は20.82歳で、48.83%が4年次生であり、次いで39.13%が2年次生、そして13.04%が3年次生であった。また23名の内、4名(17.39%)が男性で、そして19名(82.61%)が女性であった。

分析の結果、5大カテゴリー(『』で示す)・10カテゴリー(「」で示す)が抽出された(表1参照)。「学生の注意を引きつける講義」は「楽しく共感が持てる講義」と「学生の集中力を促進する講義」の2カテゴリーから構成された。『教員による学習活動の促進』は「授業中における学習活動の促進」「学習の方向性とポイントの提示」「学習課題の設定」から構成された。『学生の理解を促進する説明』は「学習媒体を活用した説明」「系統的でわかりやすい説明」から、そして『学生の視野を拡大する知識の提供』は「学生の専門知識を深める講義」から構成された。最後に『教員の熱意』は「教育への熱意と学生への関心」の1カテゴリーから生成された。

近年では、学生の主体的学習活動を促進するための方法として、反転学習や問題解決型学習などが推進されているが、これらは上記3因子を強化する方法に他ならない。本研究では、多種多様に存在する教授法の中で、どのような要素が学生のDAL促進に寄与するかを明らかにした。

表1. DAL促進に寄与する教育アプローチ

大カテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	コードの抜粋	
学生の注意を引きつける講義	楽しく共感が持てる講義	楽しく共感の持てる講義内容・雰囲気	学生の反応がある楽しい雰囲気講義 楽しい雰囲気の講義 共感の持てる教員の話がある講義 教わる内容が楽しい抗議	
		面白い教員による講義	面白い先生の講義	
	学生の集中力を促進する講義	学生が積極的にノートを取らなければならないような配付資料の工夫	メモを多くとらなければならない授業 教員の話を読まないといけないような授業資料の工夫 講義資料が穴埋めになっている講義 講義資料に書かれていない重要な事を聞き漏らさずに加筆しなければならない講義 講義資料に書き加えたいがある授業	
			緩急のある講義	教員の緩急のある話し方 講義の合間にビデオなどを見たりなど切り替えるがある講義 集中しなければいけない時とリラックスするときと、切り替えてくれる講義
		緊張感のある講義	教員が講義中に教室内を歩き回る講義 緊張感のある授業 講義中に質問される講義 臨床の人が現場の話をしてくれ緊張感のある講義	
			周囲が静かして集中できる講義	クラス全体が熱心に主体的に講義を受ける姿勢 皆が静かに聴いて頑張っている授業 学生数が少なく聴きやすい授業 静かで集中できる授業
	教員による学習活動の促進	授業中の学習活動の促進	学生が考える機会がある講義	グループワークを通して考えられる機会がある講義 教科書内容に基づいて討論がある講義 現場での話に基づいた討論がある講義 事例問題が多く自分で考えることが多い講義 自分たちで考えられる機会がある授業 自分の考えを求められる質問がある講義
			学生主体の参加型講義	グループワークやロールプレイを通じた参加型授業 学生による実技や実演を交えた講義 教科書を読ませるなど学生が受け身でない授業 参加型授業(みんなで考えや体験を共有できる授業)
		学習の方向性とポイントの提示	教員に質問しやすい環境	わからないことを直ぐに教員に聞ける環境 教員-学生間のやり取りの記録
			フィードバックを通して自分の課題がわかる授業	グループワークの結果を発表することにより皆から評価が受けられる講義 課題に対する評価が返ってきて、自身の課題がわかる講義 教員から課題の採点結果が返ってくる講義 講義中に問題を解いて間違ったところを確認できる講義
学生の理解を促進する説明	学習媒体を活用した説明	学習の方向性がわかる科目	授業中に重要なポイントが示される講義 試験や国試で問われる内容を教員が教えてくれる科目 勉強の仕方がわかっていく科目 予習のための参考書などを教員が紹介してくれる科目	
		教員による科目の重要性の強調	教員による科目の重要性の強調 上級生の状況を説明しながら、科目の重要性を説明してくれる講義	
	系統的でわかりやすい説明	講義内容を理解していないと試験に合格するのが困難な科目	テストが難しい科目 講義内容をきちんと覚えておかないと試験に受からないような科目 講義内容を本当に理解していないと解けない試験がある科目 聞かないとテスト勉強ができない授業	
		試験による評価がある科目	試験がある科目 小テストが度々ある授業	
学生の視野を拡大する知識の提供	学習媒体を活用した説明	視聴覚教材を活用しイメージしやすい講義	イラストや模型を用いたわかりやすい講義 ビデオをたくさん見せてくれる講義 言語の説明では理解がたいことを、映像を通して見せてくれる授業 実際の映像を用いた実感がわく講義	
		事例や事例の提示を通して理解が深まる講義	学習内容を事例と関連付けて話し想像しやすくする授業 臨床における事例や体験談を示しながら説明してくれる講義 教員が患者の状態を演習してくれてイメージがしやすい講義 教員の体験談によって講義内容が身近に感じられわかりやすい講義 教員の体験談を通してたりない看護師像が描ける講義 現場に人が来て実際の話しが聴ける講義 例を示すことによって理解が促進される授業	
	学生の専門知識を深める講義	実際にやって理解できる講義	実際にやって理解できる講義	
		わかりやすく説明してくれる講義	教え方のよい講義 説明のわかりやすい講義 難しい内容をかみ砕いてわかりやすく教えてくれる授業 因果関係などを関連付けながら説明してくれる講義 講義内容と国家試験や看護師になってから必要な内容を関連付けて教えてくれる授業	
教員の熱意	学生の視野を拡大する講義	順序性や関連性に基づいて教えてくれる授業	疾患の発生機序と看護ケアを関連付けてくれる講義 順序だてて説明されている資料と講義 色々なことを関連付けて教えてくれる授業	
		意見の共有により視野が広がる講義	患者に良いケアを提供するためには必要な科目 看護に関連性が強く、より専門的な授業 看護の基礎となる大切な科目 実習や国家試験に役立つ内容 実習後の講義で講義内容の重要性がわかる講義 看護師としてこれから働きたいと思う領域の講義 自分が興味がある職業に関連した講義	
	教育への熱意と学生への関心	自分が将来就きたい職種・領域との関連性が深い科目	助産師に関連した科目 将来自分が就きたい仕事と関連がある講義 保健師に関連した科目 養護教諭に関連した科目	
		教科書や講義資料に書かれていない知識が得られる講義	グループワークを通して違う考え方が発見できる授業 講義中のグループワークによって視野が広がる時 教科書に書かれていないことを教えてくれる 今しか聞けない講義(教科書などに書かれていない内容の講義) 資料に加え教員の説明で理解が深まる講義 新しい知識を教えてくれる講義	
教員の熱意	教育への熱意と学生への関心	教員がサポートしてくれる講義	教員がサポートしてくれる講義 教員が学生の話しをよく聞いてくれる講義 学生を気に掛けてくれる教員の科目 自分の名前を憶えてくれる教員の科目 生徒目線の授業 尊敬できる教員の講義	
		学生に関心を示してくれる教員の存在	学生と会話するような講義 学生に語り掛けるような授業 教員からの肯定的なフィードバック 質問したことに対して肯定的に評価してくれる教員	
		学生に語りかけるような講義	教員による熱心な説明	
		教員からの肯定的なフィードバック	教員による熱心な説明	

(2) 調査2

看護学生 500 名を対象に質問紙調査を実施した結果、165 名の学生から得た回答を得た。まず初めに、Teaching Approach Scale の妥当性と信頼性の検証結果を示す。

①Teaching Approach Scale の妥当性と信頼性の検証

尺度の因子構造を検証するために、探索的及び確認的因子分析を用いた。その結果、調査1で得られた大カテゴリは、3 因子 (『教員による学習活動の促進』『教員による専門的知識の教授と理解を促進するような説明 (以下、知識の教授に略す)』『教員の熱意と支援』) に集約された (表 2 参照)。また Teaching approach scale の得点は、Course Interest Survey ( $r = 0.77, p < 0.01$ ) と高い相関を示した。尺度全体の Cronbach's alpha 係数は 0.94 (下位因子では  $\alpha = 0.82 \sim 0.92$ ) であり、十分な内的整合性が確認された。

表 2. Teaching Approach Scale

因子と項目	EFA係数 <sup>注1</sup>			CFA係数 <sup>注2</sup>
	I	II	III	
<b>第1因子：教員の熱意と支援</b>				
1 教員が学生の理解度に沿って、講義を進めてくれる。	0.877			0.868
2 教員の話し方や講義の進め方に多様性があり、退屈しない。	0.886			0.814
3 教員が学習の方向性や方法を教えてくれる。	0.725			0.800
4 教員が、学生の学習をサポートしてくれる。	0.647			0.763
5 教員が、学生目線で講義をする。	0.720			0.757
6 教員が、学生を褒めてくれる。	0.663			0.750
7 教員の授業に対する熱意を感じる。	0.548			0.734
<b>第2因子：教員による学習活動の促進</b>				
1 グループワークやロールプレイなどを通して、学生が主体的に授業に参加できる機会がある。		0.794		0.782
2 教員からのフィードバックを通して、自己の学習課題がわかる。		0.441		0.750
3 グループワークを通して、違う考え方を発見できる機会がある。		0.686		0.735
4 講義内容の一部を実際に授業中に体験でき、理解が深まる。		0.582		0.724
5 他学生との意見の共有を通して、自己の視野が広がる機会がある。		0.448		0.711
6 グループワークや教員からの発問などを通して、学生が授業中に考える機会がある。		0.437		0.650
<b>第3因子：知識の教授</b>				
1 自分が将来就きたい職種・領域についての理解が深まる。			0.677	0.789
2 患者により良いケアを提供するための大切な知識が得られる。			0.671	0.782
3 事例や実例の提示を通して、講義内容の理解が深まる。			0.588	0.707
4 看護と関連性が高い専門的な知識が得られる。			0.702	0.670
5 講義内容に興味・関心が続く。			0.643	0.575
6 新しい知識が得られる。			0.526	0.496

注1：係数<0.4は非表示  
注2：全てのCFA係数はp<0.01

適合度指標： $\chi^2(149)=253.53, p<0.01, RMSEA=0.065, SRMR=0.055, CFI=0.939$

尺度全体の Cronbach's alpha 係数は 0.94 (下位因子では  $\alpha = 0.82 \sim 0.92$ ) であり、十分な内的整合性が確認された。

②学生が認知する教育要素と DAL の関係性の検証

次に、学生が認知する教育アプローチ (つまり『教員による学習活動の促進』『知識の教授』『教員の熱意と支援』) と看護学生の DAL 使用の関係性を分析した。この分析では、学習アプローチ測定尺度等の回答に多くの欠損値がみられた 11 名のデータを除し、154 名のデータを対象にした (有効回答率 30.8%)。対象者の多くは女性 (97.4%) で、公立大学 (74.7%) に在籍していた。平均年齢は 20.60 歳 (SD = 2.29) で、2 年生 (38.3%)、3 年生 (31.2%)、4 年生 (30.5%) の順に多かった。

記述統計の結果 (表 3 参照)、学生は教員による教育アプローチを肯定的に捉えていることが判明した。最も平均値が高かったのは『知識の教授』で  $M = 4.705$  (Range: 1 - 6) であった。次に、『教員による学習活動の促進』 ( $M = 4.117$ ) が続き、『教員の熱意と支援』 ( $M = 3.843$ ) が最も低い結果となった。学生の DAL 得点については、尺度の中点を若干超えた値に留まったものの ( $M = 4.094$ , Range: 1 - 6)、学生は DAL を使用する傾向にあることが示唆された。学生が認知する教育アプローチと DAL の間には中程度の相関関係が確認された。

表 3. 各変数の記述統計

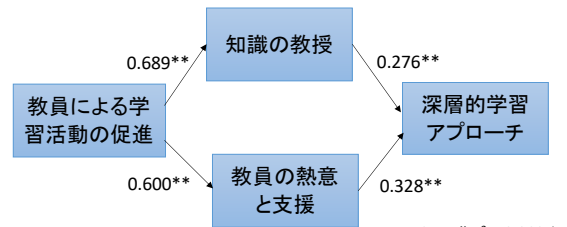
変数	平均値	標準偏差	相関係数				
			1	2	3	4	5
1 Teaching approach (合計)	4.202	0.716	(0.935)				
2 教員による学習活動の促進	4.117	0.876	0.886	(0.868)			
3 知識の教授	4.705	0.667	0.804	0.597	(0.824)		
4 教員の熱意と支援	3.843	0.897	0.901	0.703	0.599	(0.917)	
5 深層的学習アプローチ	4.094	0.661	0.510	0.337	0.506	0.510	(0.846)

注: カッコ内の数値はCronbach's alphaを示す。すべての相関係数は統計学的に有意であった ( $p < 0.01$ )。

パス解析を用いて上記関係をさらに検証した結果、『教員による学習活動の促進』は、看護学生の DAL 得点と正の相関関係にあることが判明した。またこの関係は、『教員の熱意と支援』及び『知識の教授』によって完全媒介されることも判明した ( $\chi^2(1) = 1.089, p = 0.297, CFI = 0.999, RMSEA = 0.024, SRMR = 0.020$ )。

DAL の主要要素として、学習への関心と関与がある。学習への関与は、学習に対する行動的関与 (学習課題に対する関与、努力、持続性など)、感情的関与 (学習への興味、楽しさなど)、そして認知的関与 (複雑なアイデアの理解と、難解な知識を獲得するための認知的活動) から構成される [8]。学生の行動的関与は、教員による学習活動の促進によって、感情的関与は、教員の熱意や学習支援によって、そして認知的関与は、教員による専門的知識の教授と理解を促進するような説明によって向上する。そのため、これら教育アプローチが、学生の DAL 向上に寄与したと考えられる。また学生の学習への関心を高めるためには、学生の注意を引き、そしてその注意を維持することが重要である。Learning Interest 理論では、学生の注意を引くためにはグループワークなどの学習活動の導入が有効であり、そして学生の注意を維持するためには、学習内容の意義や利用価値を高めたり、学生が肯定的感情を持てるように支援することが有効とされている [9]。そのため、教員による学習活動の促進が、授業に対する学生の興味関心を惹起し、

図 1. 学生が認知する教育アプローチと DAL 採用の関係



注意: このモデルでは「知識の教授」と「教員の熱意と支援」の error variance の相関は、 $r = 0.329, p < 0.01$  である。



教員による熱意・支援および知識の教授が、学生の学習に対する興味を維持する上で効果的であったと考えられる。

### (3) 調査3

DAL 及び SAL と看護学生の学業成績の関係を検証した英論文をキーワード検索した結果、150 文献が抽出された。そして選定基準・除外基準に照合しながら文献を選定した結果、最終的に 11 文献が分析対象となった。抽出された文献は、欧米、中近東、アジア、オセアニア圏で学士課程もしくは diploma 課程に在籍する看護学生を研究対象としたものであった。また研究の多くが横断的研究デザインを採用していた。対象文献中、9 文献 (N = 1830) から DAL と学業成績の相関係数を、そして 11 文献 (N = 2138) から SAL と学業成績の相関係数を抽出した。メタ分析 (A random-effect meta-analysis) の結果、DAL は看護学生の学業成績と正相関 ( $r = 0.259$ ) を示し (図 2 参照)、SAL は負相関 ( $r = -0.247$ ) を示すことが明らかとなった (図 3 参照)。

図 2. DAL と学業成績の相関を示すメタ分析結果

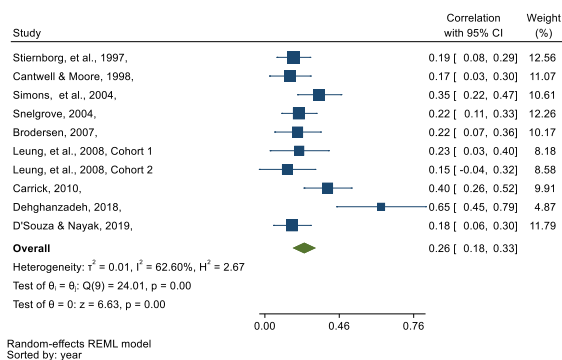
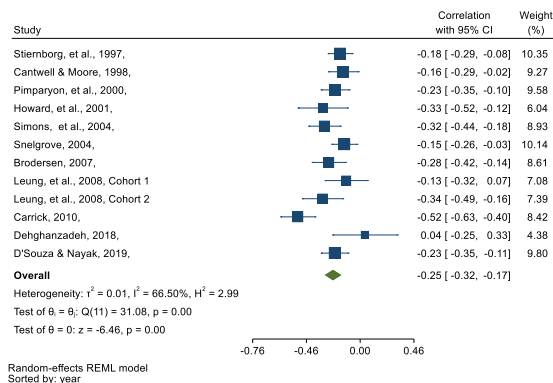


図 3. SAL と学業成績の相関を示すメタ分析結果



本研究結果から、学生自らが学習テーマに興味を持ち、そのテーマを理解するために意欲的に学習し、得られた知識を既習の知識と関連付けるといった学習を伴う DAL は、看護学生の知識習得に有効であり、促進するべき学習アプローチといえる。一方で、試験に合格するための暗記学習に代表される SAL は、非効果的な学習アプローチであり、抑制する必要があるといえる。

### (4) 結論

本研究は質的又は断研究デザインに基づくため因果関係に言及することはできないが、本研究結果から、看護学生の学習アプローチは教育アプローチの影響を受け、適切な学習アプローチの使用は、看護学生の成績向上につながることを示唆された。看護学生の DAL を促進するためには、彼らの学習への関心と関与を高めることが重要であり、彼らの関心と関与を高めるためには『教員による学習活動の促進』『教員による専門的知識の教授と理解を促進するような説明』、そして『教員の熱意と支援』が不可欠であると考えられる。

### <引用文献>

- [1] 高瀬 美由紀, et al., (2011). 看護実践能力に関する概念分析：国外文献のレビューを通して. 日本看護研究学会雑誌, 34(4), 103-109.
- [2] Takase, M., Teraoka, S. and Yabase. K. (2015). Investigating the adequacy of the Competence-Turnover Intention Model: how does nursing competence affect nurses' turnover intention? Journal of Clinical Nursing, 24(5/6), 805-816.
- [3] 奥村 元子. (2005). 新卒ナースはなぜ辞める? 看護, 7(11), 82-87.
- [4] Jackie, L. (n.d.). Deep, surface and strategic approaches to learning, U. Centre for Teaching and Learning, Dublin.
- [5] Takase, M., et al. (2015). The relationship between workplace learning and midwives' and nurses' self-reported competence: a cross-sectional survey. International Journal of Nursing Studies, 52, 1804-1815.
- [6] 川上 祐子, 向後 千春. (2013). ARCS 動機付けモデルに基づく Course Interest Survey 日本語版尺度の検討. 日本教育工学会研究報告集, 13(1), 289-294.
- [7] 河井 亨, 溝上 慎一. (2012). 学習を架橋するラーニング・ブリッジングについての分析：学習アプローチ, 将来と日常の接続との関連に着目して (<特集>大学教育の改善・FD). 日本教育工学会論文誌, 36(3), 217-226.
- [8] Fredricks, J.A., Blumenfeld, P.C., Paris, A.H., 2004. School engagement: Potential of the concept, State of the evidence. Review of Educational Research 74, 59-109.
- [9] Hidi, S., Renninger, K.A., 2006. The four-phase model of interest development. Educational Psychologist 41, 111-127.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 藤原みのり, 二井谷真由美, 今井多樹子, 上村千鶴, 高瀬 美由紀	4. 巻 45
2. 論文標題 講義科目における看護学生の効果的な学習アプローチを促進する要因の探究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護実践の科学	6. 最初と最後の頁 86-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takase, M., Niitani, M., & Imai, T.	4. 巻 89
2. 論文標題 What educators could do to facilitate students' use of a deep approach to learning: A multisite cross-sectional design	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nurse Education Today	6. 最初と最後の頁 104422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.nedt.2020.104422	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤原みのり, 二井谷真由美, 今井多樹子, 高瀬美由紀	4. 巻 29
2. 論文標題 看護系大学生の学習意欲を高める要因の探究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医学看護学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakayoshi, Y., Takase, M., Niitani, M., Imai, T., Okada, M., Yamamoto, K., & Takei, Y.	4. 巻 8
2. 論文標題 Exploring factors that motivate nursing students to engage in skills practice in a laboratory setting: A descriptive qualitative design.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Sciences	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijnss.2020.12.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中吉陽子, 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 今井多樹子, 藤原みのり.	4. 巻 49
2. 論文標題 学生観点による学習意欲を促進させる動機づけ因子 - 混合研究法を用いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安田女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 337-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takase, M., Imai, T., Niitani, M., & Okada, M.	4. 巻 35
2. 論文標題 Teaching context contributing to nursing students' adoption of a deep approach to learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Professional Nursing	6. 最初と最後の頁 379-388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.profnurs.2019.04.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井多樹子, 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 岡田麻里	4. 巻 44
2. 論文標題 看護学生の学習意欲を阻害する教育者側の要因: 臨地実習に焦点を当てて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護実践の科学	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takase, M., Niitani, M., Imai, T., & Okada, M.	4. 巻 6
2. 論文標題 students' perceptions of teaching factors that demotivate their learning in lectures and laboratory-based skills practice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Sciences	6. 最初と最後の頁 414-420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijnss.2019.08.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takase, M., & Yoshida, I.	4. 巻 37
2. 論文標題 The relationships between the types of learning approaches used by undergraduate nursing students and their academic achievement: a systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Professional Nursing	6. 最初と最後の頁 836-845
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.profnurs.2021.06.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計13件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 今井多樹子
2. 発表標題 Teaching approach scaleの開発と信頼性・妥当性の検証
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中吉陽子, 山本久美子, 竹井友里, 今井多樹子, 岡田麻里, 高瀬美由紀
2. 発表標題 看護技術修得における学生の主体的な学びに影響を与える要因の探求
3. 学会等名 一般社団法人日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川元美津子, 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 今井多樹子, 岡田麻里
2. 発表標題 看護学生が用いる学習アプローチの探究
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 今井多樹子, 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 岡田麻里
2. 発表標題 看護学生の学習意欲を阻害する教育者側の要因: 臨地実習に焦点をあてて
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高瀬美由紀, 今井多樹子, 上村千鶴, 藤原みのり, 山本久美子, 中吉陽子
2. 発表標題 深層的学習アプローチと教育3要素との関連性
3. 学会等名 第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中吉陽子, 二井谷真由美, 今井多樹子, 高瀬美由紀
2. 発表標題 看護学生の学習意欲を阻害する要因の探究: 講義科目に焦点を当てて
3. 学会等名 第30回日本医学看護学教育学会学術学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤原みのり, 高瀬美由紀, 今井多樹子
2. 発表標題 看護系大学生の学意欲を高める要因の探究
3. 学会等名 第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今井多樹子, 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 岡田麻里, 山本久美子
2. 発表標題 臨地実習における深層的学習アプローチの促進に影響を与える要因の探究: 実習指導を担う教育者側の前提要件
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高瀬美由紀, 二井谷真由美, 今井多樹子, 岡田麻里, 山本久美子
2. 発表標題 深層的学習アプローチに影響を与える要因の探究 Part 1: 教育者側の前提要件
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二井谷真由美, 高瀬美由紀, 今井多樹子, 岡田麻里
2. 発表標題 深層的学習アプローチに影響を与える要因の探究 Part 2: 学生側の前提要件
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高瀬美由紀, 吉田いつこ
2. 発表標題 看護学生の学習アプローチと学業成績の関係: システマティック・レビュー
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤原みのり, 二井谷真由美, 中吉陽子, 高瀬美由紀, 今井多樹子
2. 発表標題 看護系大学生の学習意欲を高める要因の探究
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高瀬美由紀, 中吉陽子
2. 発表標題 大学生の学習に対する状況的興味に関する文献検討先行・帰結因子の探求
3. 学会等名 第32回日本医学看護学教育学会学術学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	二井谷 真由美  (Niitani Mayumi)  (30326441)	安田女子大学・看護学部・准教授   (35408)	
研究分担者	今井 多樹子  (Imai Takiko)  (80538439)	日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授   (35408)	

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------